

青年海外協力隊 チーム・グループ派遣概要

（平成 1 0 年 1 月現在）

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局

「コスタリカ」

1. プロジェクト名 : 環境に優しい農業プロジェクト
PROYECTO COOPERATIVO DE INVESTIGACION Y TRANSFERENCIA DE
TECNOLOGIA EN AGRICULTURA ORGANICA (西語)
2. 協力期間 : 第1期 1993.8 - 1995.7
第2期 1995.8 - 2000.7
3. プロジェクトサイト : 本部 国立コスタリカ大学の農学部 FABIO BAUDRIT 試験場
パイロット地区 ビタル、グレシア、ニコヤ
4. 相手国実施機関 : 国立コスタリカ大学農学部
5. 要請背景 : コスタリカ農業はこれまで化学肥料と農薬のみに依存してきたため、近年
になり農地生態系が破壊され、土壌の衰弱化が起こり、病虫害の増加や作物
生育不良、栽培コスト増加など、農民生活圧迫につながる問題が表面化
してきている。また、同時に、第一次産業廃棄物が原因の河川汚染が深刻
化し、大規模な環境被害が発生している。これらの問題解決のため同国の
各研究機関では様々な努力がされているが、その一つの有効な手段として、
廃棄物利用の有機質肥料による土壌改善、病虫害の生態防除を組み合わせ
た環境に優しい農業技術が注目されている。
6. プロジェクトの目的 : コスタリカの代表的気候条件を持つパイロット地区で、環境への影響を最
小限に押さえた農業技術を開発・実証・普及させ、小規模農民の所得向上
に貢献する。
7. 協力活動内容 : 1) 各パイロット地区における適性農業技術の開発・実証・普及（基本有用
技術の改良と応用による、減化学肥料と栽培環境改善を目的にした栽培
技術の確立）
2) 各パイロット地区における病虫害総合防除コントロール技術の開発・実
証・普及（減農薬を目的とした病虫害生態防除）
3) パイロット地区農村婦人グループのプロジェクトへの参加（安全作物の
栄養価値などの認識、婦人参加による地区全体の活性化）
4) 基礎技術講習会を通して、多数の農民への技術紹介
8. 活動の現状 : 1) プロジェクト本部であるコスタリカ大学試験農場で、技術開発部門担当
隊員（土壌、病理、害虫、野菜）とカウンターパートによる基礎実験を
行い、技術開発を実施する。
2) 3ヶ所のパイロット地区で、技術実証普及部門担当となる現地定着型の
野菜隊員が、受入団体により選抜された農民グループと以下のことを共
同で活動中。派遣が長期化するにつれ、効果も目にみえてあがっている。
特に、熱帯雨林気候のビタル地区では、隊員が、22農民団体(計150名)
を抱えるARAOアソシエーションとの活動を開始し、活動は、一層活発
化している。
a. 各地区で入手可能な有機廃棄物等の材料を使った独自の有機質肥料製
造方法を確立させる。
b. 作物保護分野で、各地区の問題調査、対策の検討、そして解決策の効
果試験を行なう。
c. 小規模の実証圃場を設け、上記内容を取り入れた比較栽培試験を実施
し、適正栽培技術を確立する。
d. 実証圃場での活動が軌道に乗った後、選抜農民以外のパイロット地区
農民を対象にした活動紹介行事を計画実行する。

青年海外協力隊 チーム・グループ派遣概要

(平成9年3月現在)

国際協力事業団
青年海外協力隊事務局

「コスタリカ」

1. プロジェクト名 : 環境に優しい農業プロジェクト
PROYECTO COOPERATIVO DE INVESTIGACION Y TRANSFERENCIA DE
TECNOLOGIA EN AGRICULTURA ORGANICA (西語)
2. 協力期間 : 第1期 1993.8 - 1995.7
第2期 1995.8 - 2000.7
3. プロジェクトサイト : 本部 国立コスタリカ大学の農学部 FABIO BAUDRIT 試験場
パイロット地区 テイエラプランカ、グレシア、ニコヤ、エンカント
4. 相手国実施機関 : 国立コスタリカ大学農学部
5. 要請背景 : コスタリカ農業はこれまで化学肥料と農薬のみに依存してきたため、近年になり農地生態系が破壊され、土壌の衰弱化が起こり、病虫害の増加や作物生育不良、栽培コスト増加など、農民生活圧迫につながる問題が表面化してきている。また、同時に、第一次産業廃棄物が原因の河川汚染が深刻化し、大規模な環境被害が発生している。これらの問題解決のため同国の各研究機関では様々な努力がされているが、その一つの有効な手段として、廃棄物利用の有機質肥料による土壌改善、病虫害の生態防除を組み合わせた環境に優しい農業技術が注目されている。
6. プロジェクトの目的 : コスタリカの代表的気候条件を持つパイロット地区で、環境への影響を最小限に押さえた農業技術を開発・実証・普及させ、小規模農民の所得向上に貢献する。
7. 協力活動内容 : 1) 各パイロット地区における適性農業技術の開発・実証・普及（基本有用技術の改良と応用による、減化学肥料と栽培環境改善を目的にした栽培技術の確立）
2) 各パイロット地区における病虫害総合防除コントロール技術の開発・実証・普及（減農薬を目的とした病虫害生態防除）
3) パイロット地区農村婦人グループのプロジェクトへの参加（安全作物の栄養価値などの認識、婦人参加による地区全体の活性化）
4) 基礎技術講習会を通して、多数の農民への技術紹介
8. 活動の現状 : 1) プロジェクト本部であるコスタリカ大学試験農場で、技術開発部門担当隊員（土壌、病理、害虫、野菜）とカウンターパートによる基礎実験を行い、技術開発を実施する。
2) 4ヶ所のパイロット地区で、技術実証普及部門担当となる現地定着型の野菜隊員が、受入団体により選抜された農民グループと以下のことを共同で活動中。
a. 各地区で入手可能な有機廃棄物等の材料を使った独自の有機質肥料製造方法を確立させる。
b. 作物保護分野で、各地区の問題調査、対策の検討、そして解決策の効果試験を行なう。
c. 小規模の実証圃場を設け、上記内容を取り入れた比較栽培試験を実施し、適正栽培技術を確立する。
d. 実証圃場での活動が軌道に乗った後、選抜農民以外のパイロット地区農民を対象にした活動紹介行事を計画実行する。
e. 家政隊員は婦人グループ作りを行ない、農民グループの婦人層がプロジェクトに参加し、安全な収穫物の恩恵をまず家族で認識できるようにする。

f. コスタリカ大学試験農場内の研修所にて、パイロット地区以外の農民を対象にした基礎技術講習会を職業訓練学校農業部の参加により実施する。

9. 問題点と今後の課題 : 本計画の遂行には隊員の継続派遣が必須であるが、農業分野は隊員確保(特に実務経験者)が難しい職種である。選考において、優先的な隊員確保を行なうことにより対処する。

10. 協力実績 : 隊員派遣 シニア隊員 2名
緊急短期シニア 1名
一般隊員 14名
機材供与 車両2台、トラクター1台、病害虫実験機材

11. 派遣隊員数及び職種
・植物病理 1名 (シニア隊員)
・病虫害 2名
・野菜 6名
・家政 1名
・土壌肥料 1名
合計 11名 (平成9年1月現在)

12. 他の経済・技術協力との関係 : なし

13. 調査団等 : ・プロジェクト調査団 1995年2月
(コスタリカ国有機農業技術普及プロジェクトグループ派遣巡回指導調査)
・協力隊農業技術顧問による巡回指導 1996年3月

